

NO.162

# 泉南走ろう会

連絡先  
泉南スポーツ社  
0724(83)4653

## 阪神大震災救援金のお願い

阪神大震災より早一ヶ月が過ぎました。五〇〇〇人を超える犠牲者、今なお三〇〇〇人の方が避難生活を続けておられます。走ろう会委員の皆様の身内、知人、友人の方はいかがでしたか。大変な困難に遭われた方もおられると聞いております。

ときには、小春日和のような天気があるかと思え、まだ二月底冷えの続く厳寒の日々です。未曾有の悲惨な大地震に被災された方を思えば心が暗澹と痛みます。日本全国からまた世界各国から救援の手がこしめべられておりますが、復興がいつの日か、早期復旧は困難とされております。

先日新聞にておりました。震災の救援をした、救援物資を送りたい、コレが豊かな日本に何を送れば、何をすれば良いか、日々悩んでいる。とりあえずとスリランカより紅茶、モンアルより毛布、手袋等が届けられたそうです。心暖まる思いがします。

兵庫県といえは、スロウの盛んなところであり、野球、駅伝、マラソン等、なかでも、私達は毎

年お世話になっております篠山マラソン、神戸マラソン、外に数々のマラソン大会があり、それに参加させて頂いております。そのラン友、同じようにフルマラソンやハーフマラソンで競技した人達が、ご無事でしようか。もしそうでなかつたら、ばと、思うだけで、深い悲しみを覚えます。このとき、せめてものなにかの役にでもたてよばと思いい、委員の皆様一人一人の〇〇〇〇円の救援金をお願いいたします。

皆様は、もうすでに家庭から職場から救出されておられると思えますが、私達はいまも走らせてお願いいいたします。

### 救援募金期日等

三月二十六日まで例会日または走ろう会事務局泉南スポーツ社へ御持参下さい。

### 救援募金送付先

募金終了後、一括して「泉南走ろう会」として朝日新聞大阪厚生事業局を通じて被災地へ送付させて頂きます。



「友の安否を気遣う」

(副題)あなたは何キロ強かできますか

会長 遠健三

いまなお余震が続いております。日本列島一体どうなっているの、不気味な毎日です。

さて、一月十七日、今日は機関紙の原稿を石橋さんに届けるタイムリミットだ、どうしても原稿を書かねばならない。今日はいつものように走りに行くことが出来ない。原稿を書こうと書きかけていると、グラクと来た。地震だ、家内に「あつてないようにバタ／＼しないように」と地震のおさまるのを待つ。私はいままでに地震や台風等に何回かあてている。こういう時は落ち着くことだ。それにしても、えらい地震だなあ。テレビをつける、さあ大変だ、神戸はえらいことになっている。兵庫県南部大地震です。

(こういう時に落ちついた方がいいのか、どうも後で友の話しによると一瞬の差であった「生と死」は紙一重、恐い、どうのと考える間がなかった。ヒッパに表に出た、そして助かたこと)

昼すぎ石橋さんから電話あり「地震大丈夫でしたか」あ、大丈夫、今日中に原稿書くよ、届けるよ」と返事する。私は原稿の督促かと思つた、どうでもはなかつた。

石橋さんは私達老夫婦の安否を気遣ってこれの電話でした。すまんちや。私は「有難う、大丈夫です」となせ言えなかつたかと後で思う。そう云つて、うちに台湾から電話あり。先生大丈夫ですか、こちから家族みな心配している。日本地震テレビで見ている」と台湾登山隊長の林さんです。私は台湾の山登山の時大変お世話になっております。台湾より私の安否を気遣つて頂きうれいことです。

後日、石橋さんから電話があり、「リュックサックにどれ程荷物を入れて運ぶ(強カ)か」という話があ、フシは十キロの荷物なら、かいで走る。大体二十キロの荷物を持つ。海外登山では、エノミミークラスでは荷物二十キロまでに制限されるため、ちよとした山ではいつも十五、六キロだ。夏山フルポスならば、二十キロ位持つて行くよと返事をする。ふが、石橋さん友の安否を気遣い救援物資を運ぶためだ。この時も「ほな手伝うか」といふなかつた。私は歯の冷療中であつた。

後で聞くと息子さんと二人で甲キロの荷物を持つ二人二十キロだ。その日はやや暖かつた。暑い中、西宮北口から頭の上を注意し何かが落ちてくるかわかりない。そして互疎の中間三時間おかけで、十五、六キロの道を御影町の友のもとへ、救援物資を届けた。私心配する、病上がり(手術)まだ目が残りに傷口がパルスと開かないものかと。よめはく大変でした。御苦労様でした。

なんといつても地震直後のその時は、水、食糧、下着でした。一日も早く、救援物資を届けねばならぬ。

「石橋さん、どうでしたか。重かつたでしょう。あんたはなんぼ若くてもリュックにはなれていないし、ましてや手術後だけに悪いことをした。一緒に行けばよかつた」と電話する。すまじよめから石橋さんのところへ細井さんが来て、「私ならば二十キロ位の荷物を持つ」と云うた。そうだと、そんな人に相手になるな、彼と南マルポスに行つたとき、彼はラント、か又器置場ラメン、そうめん等、二十キロ以上の荷物を持っていた。彼は元氣だよ。そして次に今度は真鍋さんが来て、「私ならば二十キロ位の荷物を持つ」と云う。そうだと、彼は秋の山によく行く。秋山は夏山と違い、よめなりの装備をせねばならぬ。彼の武勇伝をよく聞いている。相手になるばあんだも病上がりなのに、そうでなかつたならば、ちよと楽であつたになあ。

廢墟と化した道端で休み休み親子で救援物資を運ぶ姿を思ふ、かへ頭の下がる思いがする。石橋さんに聞く「帽子かヘルメット、そして足元は運動靴か軽登山靴がよい」と危ぶまないよ。そうか、そうか、フシは明日行つてくる。道を知つて、向うの人は御苦労さんといひ親切に道を教えてくれる。地図持っているか。地図はあつたよ。とにかくフシは行つてくる。一月二十日阪神梅田駅に十六キロの下着、シャツ等の荷物を持つ。弁当は昼の二食分だ。私

か、私は新聞を見て、電話はかからぬ。東難区の死亡欄です。奥崎と御影山手にいる友、その外の友人は神戸市北區で大丈夫であらう。今日は奥崎と御影に行く。二日前に阪神電車は青木駅まで開通した。梅田駅、みなか心なしが緊張した顔をしている。よめはそうでしょう。私もどうぞ生きてくれよ。無事であつてほしい。すまじよめに会えなかつた。ならば東難区の被災所を二つ三つ暗くなるまで探れ歩く。それがため、夕食も持つて、そして会えなかつた。ならばこの荷物を被災所に届ける。みんなかそんな気持ちでしょう。梅田駅を出ると、すぐ防水シートの屋根が見え、尼崎を過ぎると家屋の倒壊が目につく。電車の中まで建物の撤去の音がする。バリバリ、カンカン、よめは薄い青木駅に着く。さて、どう行くかなあ。友の家には一度しか来ていない。三十年來の仕事の友であつたが、たいがい大阪で呑んだ、生きていてくれ。互疎の道を歩き、道を聞く。御苦労さんです。ミニを真直行行けばよいと教えて頂く。えらいことになつて、悲惨、無惨、なんたることか。あつ友の奥さん、娘さんに会つ。家は半壊。もう一目で、全壊です。友が来る。あつ、良かった。とりあえず持つて来た荷物、なにかに役だつて

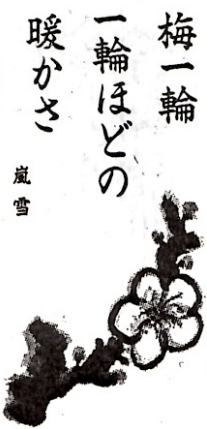
くれればと思ひ、リョクジと友に渡す。  
友、奥さん一言私に「すまん、よく来てくれたし、これ以上どうしようもない。私は呆然とする。私は何も出来ない。私は友に「これから気を強く持てやってくれ」と励ますのみ。

二月四日再び防寒着等を持って行く。友は自衛隊のテント暮らしのこと。御影の友へは最近の公衆電話より電話する。仕事であったが、ガス電気、氷はもちろんだ。それでも友は「有難とう、仕事だ、青木からこゝまで電車もないうで来て下さうな、くも結構の事であった。友への励まし、お互いもう年だが、強くこゝから生きて頂きたいと毎日思う。

今も余震が続く「友の安否を気遣うし未曾有の震災に石橋さん親子の優しい心遣いに私は感動する。  
普通一般十代から二十代半ばにかけての心温もりだの、人に優れ、心遣いだの、いさか少なくて、そして現代何も感じない無感動な人が多いと私は思われます。

それなのに、重りを持つて救援に行く心のぬくもりを感じる人、若い自分が、今何をなすべきか、この体験を身につけたといふことは、これからの人生に貴重な大切な財産になったと私は確信する。悟しさの翹が自然に滲み出てあり、互疎の道をヨイヤシヨイヤとで歩いたのでし。

心の温もり涙のない人間は駄目だ。人はパンだけでは生きてゆけないと言ふ事を痛感する。



「継続は力なり」

未曾有の阪神大震災、今年は関西も開港し、阪神高速津岸線も開通した。よし、よき年であるようにと思いましたが、あの悲惨な大震災。

大阪国際女子マラソン、泉州国際市民マラソン、篠山マラソン中止になりました。対岸の神戸が大震災、災害、このこと思えば心情的にまた交通事情からして、中止も止まを得ないと思えます。

そこで中止、あんな走らんでよかた、ようこんでいる人があるかも知れませんが、いやそうではない。「泉州国際市民マラソン、抽選であった私はいずれいづれ、毎日練習して」とよくこんでいる人がありましたが、本當かな、それにしても中止となり残念。  
思えば昨年より来年こそはと思ひ、いかに一年の計は元且にありと今年も一月日より練習に励んでおりましたので中止、へなへなとなり、目標を失ない、走り三日休めは、もう

走る気がしない。そんな方もおるか、知れませんが。私もなんだか気がぬけた。大会の後の打ち上げを楽しみにしておりましたのに。

さて、継続は力なり。継続といつても毎日走るのも一週間に一回、毎週走るのも、月に一回、毎月走る、二年十二回走る。これも継続です。昨日テレビでやておりましたボクシングのモハメド・アリは、なぜあんなに強かったのか。彼は何時も目標を持って、た。それが持久力となると、私は何度も言いますが、小錦関は常に希望を持つことだ。希望のない人生は生きていても仕方ない。以前に早南市の文化ホールで北陣親方元関脇麒麟見の「継続は力なり」と題しての講演がありました。私は相撲道の何かを聞けるのかと思つて聞かに行きました。結局は「私は小さい子ども

の時から相撲とりになりた」と思つた。それで関脇までなつた。希望を継続する。それは「力なり」とのことです。

皆さんも岸和田や篠山が中止になつたぐらいでマラソンもう止めたと言わないでランニングを続けて下さい。週一回、こゝが駄目ならば毎日でも寒さに気を付けて頑張つて下さい。  
「継続は力なり」

震災地を歩いて

石橋義春

学生時代の友達が神戸市東灘区にいた。地震後、冒険して連絡がとれた。家族マシソンとも無事であった。元氣な首のあつとほけた声を聞いて安心。心要なものをもつて、と約束して彼の要求のものを家内に用意してもらおう事にした。念のため、山経路、豊島な遠会長に一人で担ぐ重量を放棄してもらおう。結果、ニヤと判断する。友達の荷物が増えた。何と四ナヤ。これは一人で駄目。息子に助力を頼む。息子「オレ、いよ」

さあ、二で出発。早朝家を出て、七時半頃、西宮北口駅に着く。そこから二十ヤの荷物を担いで十五ヤ程、三時間強で友達の家につく予定だった。

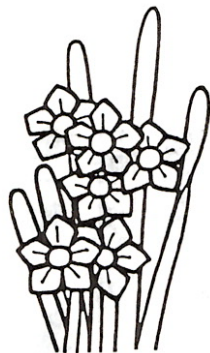
西宮市、芦屋市と国道二号线を歩く。道は、救援車両と書かれた車であふれてる。歩道には倒壊しそうな家が見だして、地震後、七日目だったせい、住民の方は、平静だが、二号线の道沿いの奥の家々は見ても無惨にほとんど倒壊。今でも一階部分がなくたり、二階の部分のかがが落ちたのみ、みるみる傾いた部屋に本棚と机がまたの目に見えまわっている。子供部屋だったのだろうか。息子も私も会話らしい会話もなく、もくもくと歩いた。一時間歩いては十

分、十五分休けいしたが、さすがに汗間がたつにつれて肩の重みがましてくる。アルマシソンに比べれば、こんなものと思ひ、上体をふんで重心の位置をかえてやる。少し楽になる。予定より遅れる事、一時間で友達宅に到着。

友達の子供三人が、私と私の息子の持っていた荷物の周りをとり囲み、出してゆく荷物を見て「ア、すごい、こいもある、あれもある」と言ひ、笑顔が増えゆくのがうれしかった。また地震がなければと思うと不びんにもなつた。少し休けいして友の引きとどめるのを後に、帰途についた。

帰りは息子の希望で、私も同じだが、バスに乗る事ができた。日頃、休みがちな走る練習だが、年で換算すれば、まあまあ走っている。ニヤヤの荷物を担いで歩けたのも日頃の成果だと自負する。

帰宅して友達の事やら、地震のすさまじさ、荷物の重さやらで、その夜は話一杯で、一家は眠りについた。



お知らせ

一、例会日 二月二十六日 午前九時

集会場所 神戸神社前広場

二、コース 皆と相談して決める。

一、備考 今、この例会は一旦は自主トレとし、ましたが、泉州マシソン中止となり、ために自主トレでなく例会日とします。

口、救援金 もつすむに、事務局へ

ご持参下さっている方もおられますが、そのほかの方ご持参願います。

一、盗例会日 三月十二日、二十六日 時間場所

ツもの通りです。

但し、三月二十六日は、くまとりマシソンありならば、どうするかが後日 打合わせいたします。

三月十二日例会、遠欠席。

倉敷ツデー、チ参加のため。

※次回機関紙の原稿は園田さんです。よろしくお願ひします。